

## 中世の合唱曲

### *O BONE JESU Compere*

O bone Jesu O bone Jesu,  
illumina oculos meos,  
ne unquam obdormiam in morte,  
Pracvalui adversus eum  
in manus tuas, Domine  
Commendo spiritum meum.  
Redemisti nos.  
Domine, Deus veritatis. O Messias  
locutus sum in lingua mea, notum fac mihi  
Domine, Finem meum, Amen.

### *ISBRUCK Isaac*

Isbruck ich muß dich lassen  
Ich far dahin mein strassen  
In fremde land dahin  
Mein freud ist mir genommen,  
Die ich nit weiß bekummen  
wo ich im Elend bin

### *ALMA REDEMPTORIS MATER Palestrina*

Alma Redemptoris Mater,  
quae pervia caeli porta manes,  
Et stella maris, succurre cadenti,  
surgere qui curat populo,  
Tu quae genuisti, natura mirante,  
tuum sanctum Genitorem,  
Virgo prius ac Posterius,  
Gabrielis ab ore simens illud Ave,  
peccatorum miserere.

### *AVE ARIA Arcadelt*

Ave Maria, gratia plena: Dominus tecum,  
Ave Maria benedicta tu benedicta tu  
in mulieribus, et benedictus  
fructus ventris tui, Jesus.  
Sancta Maria, ora ora pro nobis,  
Sancta Maria, ora ora pro nobis  
Sancta Maria, ora ora pro nobis. Amen.



## わたしの季節

中村千栄子 詩

### 1 春の誕生

今日 春が 生まれました  
やわらかい風の中から  
ほら のぞいてるでしょ  
やさしい春のつかい  
頬を なでてく  
恋の そよかせ  
いま ここに……

今日 春が 生まれました  
あたたかい光をうけて  
いま あなたは 生まれてきたのです

今日 春が 生まれました  
むせかえるバラの香りに  
ほら はずんでるでしょ  
やさしい愛のつかい  
赤く 燃えてる  
恋の ときめき  
いま ここに……

今日 春が 生まれました  
あたたかい光をうけて  
いま あなたは 生まれてきたのです

### 3 こんなに秋の晴れた日は



こんなに秋の晴れた日は  
何か洗濯したくなる  
ストッキングも  
さらっと すぐに かわいちゃって  
こんなに秋の晴れた日は  
カッターシューズを ならして  
歩きたいのよ

### 2 夏の嵐

わたしの夏  
夏の嵐よ  
なぜ いってしまった  
わたしの この胸から  
きずあと  
えぐるように彫りつけて  
ああ 夏の嵐  
紅のカンナの花  
こんなに するどく  
目にうつるの なぜかしら？

わたしの夏  
夏の嵐よ  
まだ うずいている  
わたしの この心に  
激しい  
波のようにうねらせて  
ああ 夏の嵐  
そのあとの青い空が  
こんなに むなしく  
まぶしいのは なぜかしら？

わたしの  
夏の嵐よ  
思い出の日日よ  
わたしの このためいき  
夜ふけの  
霧の中にただよわせ  
ああ 夏の嵐  
スカッシュの 泡のつぶが  
こんなに つれなく  
消えてくのは なぜかしら？



こんなに秋の晴れた日は  
赤い電話をかけましょう  
あなたのダイヤル  
くると すぐに まわしちゃう

こんなに秋の晴れた日は  
明るい落葉の歩道を  
歩きたいのよ

こんなに秋の晴れた日は  
シャネル・スーツを 着こんでね  
口笛なんか  
ひゅんと ふいてみてね  
こんなに秋の晴れた日は  
噴水の虹 くぐって  
歩きたいのよ

### 4 雪の夜の思い出

雪の夜に  
いつも ねだる  
昔ばなし  
母のなまり  
遠い思い出  
雪の夜に  
つもる あの日の  
母の面影

雪の夜に  
あんだ手袋  
赤い毛糸  
部屋をころげ  
子猫あそぶ  
雪の夜の  
こたつの温み  
外は粉雪

(ハミング)  
ひとり 静かな  
雪の夜に  
ふるさと しのぶ  
春を待つうた

# 心の四季

吉野 弘 詩

## 1 風 が

風が桜の花びらを散らす  
春がそれだけ弱まってくる  
ひとひらひとひら舞い落ちるたびに  
人は 見えない時間に吹かれている

光が葡萄の丸い頬をみがく  
夏がそれだけ輝きを増す  
内に床しい味わいを滲え  
人は 見えない時間にみがかれている

雨が銀杏の金の葉を落とす  
秋がそれだけ透き通ってくる  
うすいレースの糸を抜かれて  
.....

雪がすべてを真白に包む  
冬がそれだけ汚れやすくなる  
汚れを包もうと また雪がふる  
私は 見えない時間に包まれている



## 2 みずすまし

一滴の水銀のような みずすまし  
やや重く 水の面を凹ませて  
浮いている 泳いでいる  
そして 時折 水にもぐる

あれは 暗示的なこと  
浮くだけでなく もぐること

わたしたちは  
日常という名の 水の面に生きている  
浮いている だが もぐらない  
もぐれない 日常は分厚い

水にもぐった みずすまし  
その深さは わずかでも  
水の阻みに出会う筈  
身体を締めつけ 押し返す  
水の力に出会う筈

生きる力を さりげなく  
水の中から持ち帰る  
つぶらな可憐な みずすまし  
水の面に したためる  
不思議な文字は 何と読むのか？

みずすましー  
あなたが死ぬと  
水はその力をゆるめ  
むくろを黙って抱きとってくれる  
静かな静かな 水底へ  
それは 水のやさしさ  
みずすましには知らせない  
水の やさしさ

## 3 流 れ

岩が しぶきを あげていた  
深みを渡る 馬のよう  
青い流れを噛みながら  
ひとつところに 阻まれて

魚が ひっそり 遡る  
岩のほとりを 川上へ  
強靱な尾で 水を蹴り  
速い流れを 貫いて

岩が しぶきを あげていた  
あきらめ知らぬ 馬のよう  
魚が するどく 遡る  
強靱な尾で 水を蹴り

逆らうにしても それぞれに  
精一杯な仕方がある  
凛々しい魚は 遡る  
武骨な岩は 水を噛む

魚は岩を いやしめず  
岩は魚を おとしめず  
青い流れを送り迎え  
それがいかにも爽やかだ

流れは 豊かに 大らかに  
むしろ卑屈なものたちを  
押し流していた 川下へ  
押し流していた 川下へ





#### 4 山が

山が 遠くから  
人の心を とりこにする

人が その心を  
さがしにゆく

それで  
身体ごと とりこになる

#### 5 愛そして風

愛の疾風に吹かれたひとは  
愛が遥かに遠のいたあとも  
ざわめいている  
揺れている

風に吹かれて 枯葦がそよく  
風が去れば 素直に静まる

ひとだけが  
過ぎた昔の 愛の疾風に  
いくたびとなく 吹かれざわめき  
歌いやめない 思い出を

#### 6 雪の日に

雪がはげしく ふりつづける  
雪の白さを こらえながら

欺きやすい 雪の白さ  
誰もが信じる 雪の白さ  
信じられている雪は せつない

どこに 純白な心など あろう  
どこに 汚れぬ雪など あろう

雪がはげしく ふりつづける  
うわべの白さで 輝きながら  
うわべの白さを こらえながら

雪は 汚れぬものとして  
いつまでも白いものとして  
空の高みに生まれたのだ  
その悲しみを どうふらそう

雪はひとたび ふりはじめると  
あとからあとから ふりつづく  
雪の汚れを かくすため

純白を 花びらのように かさねて行って  
あとからあとから かさねて行って  
雪の汚れを かくすのだ

雪がはげしく ふりつづける  
雪はおのれを どうしたら  
欺かないで生きられるだろう  
それが もはや  
みずからの手に負えなくなってしまったかの  
ように  
雪ははげしく ふりつづける

雪の上に 雪が  
その上から 雪が  
たとえようのない 重さで  
音もなく かさなってゆく  
かさねられてゆく  
かさなってゆく かさねられてゆく

#### 7 真昼の星

ひかえめな 素朴な星は  
真昼の空の 遥かな奥に  
きらめいている  
目立たぬように—

はにかみがちな 綺麗な心が  
ほのかな光を見せまいとして  
明るい日向を  
歩むように—

かがやきを包もうとする星たちは  
真昼の空の 遥かな奥に  
きらめいている  
ひそやかに 静かに—

